

SOA Partner CommunityとSOA事例

SOA Partner Community は、日本国内における SOA ビジネスの発展・浸透を目的として、2009年5月に IBM パートナー様と日本アイ・ビー・エム株式会社（以下、日本 IBM）で設立された非営利団体です。今回は、SOA Partner Community 会長であるアクセンチュア株式会社 立花 良範氏、副会長であり技術研究分科会リーダーである株式会社ユーフィット 入山 秀樹氏、そして、理事であり事例研究分科会リーダーである日本ビジネスコンピューター株式会社 青山 瑞穂氏を招いて、特別座談会を開催しました。



SOA Partner Communityの活動

【モデレーター 上沢】 皆さまお忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。本日は IBM パートナー様を中心に構成されています SOA Partner Community（以下、SPC）の活動と、皆さまが感じになっている SOA の現状や事例について、忌憚のないご意見をお伺いできればと思っております。まずは、設立一周年を迎えました SPC の活動や効用についてお伺いしたいと思います。

【立花氏】 SPC には現在 89 社が会員として参加しており、その内の 16 社が理事となって運営しています。コミュニティの活動の本道は会員会社様の横のつながりを強くしていくところにあります。毎月のニュースレター発行や四半期ごとの定例会開催などももちろんですが、特に活動の両輪となっているのが技術研究分科会と事例研究分科会の2つの分科会です。両分科会では、一定のテーマに従って毎月有志のメンバーが集まって技術と事例の側面から研究やディスカッションを行っています。

理事会社に関しては昨年、日本 IBM の天城ホームステッドで合宿させていただいて深い議論をしたことにより、SPC を理事会社が推進役となって会員会社様のビジネスに何かしら貢献できるような方向に進んで行こうという相互理解が深まりました。SPC の特長としてはこのように理事会社のやる気と自分たちで活動していくという意識が非常に高いことが挙げられます。

【入山氏】 SPC の技術研究分科会では SOA の技術的な課題や最新技術などに関する情報交換やディスカッ

【座談会参加者】

立花 良範 氏

Mr. Yoshinori Tachibana

アクセンチュア株式会社
テクノロジー
コンサルティング本部
ITストラテジ グループ統括
エグゼクティブ・パートナー

【プロフィール】

通信ハイテク企業を中心に多くの大規模SIをPMとして経験。2006年よりアクセンチュア東京事務所のIT戦略グループ統括。業界を問わずIT戦略、システム・ブランド・デザイン策定やIT組織改革支援に携わる。

入山 秀樹 氏

Mr. Hideki Iriyama

株式会社ユーフィット
ソリューションビジネス事業部
ソリューション
コンサルティング部
BPM/SOA推進室 室長

【プロフィール】

銀行勘定系システムのSEを経てITコンサルタントに転身。プロジェクトマネジメント、内部統制関連のコンサル活動に従事。現在はBPMやSOAをベースとした案件全般を手掛けている。

青山 瑞穂 氏

Mr. Mizuho Aoyama

日本ビジネスコンピューター株式会社
ERP事業部
SI企画
先進開発 担当

【プロフィール】

1985年日本ビジネスコンピューター株式会社に入社。PG/SEを経てお客様へのソリューション提案活動に従事。2008年、BPM/SOA推進担当としてお客様のBPM/SOA環境構築の支援を行うと共に社内への展開を図っている。

ションを毎月行っています。具体的には、最初にメンバーの方々が自発的に1年かけて研究していくテーマを検討・選択し、テーマごとにグループに分かれて活動しています。選択されたテーマは3つあり、1つ目はSOA構築プロジェクトの進め方、2つ目はSOAのモデリング手法とSIの世界での標準の1つであるSLCP（Software Life Cycle Process）のフレームワークなどとの比較検討、そして3つ目はSOAに関連する製品技術に関する調査やハンズオンの実施です。これらをそれぞれのグループに分かれて月一回集まって研究やディスカッションをしています。

技術研究分科会としては、3つのテーマの研究成果もちろんですが、実際に会員各社様が保有している技術や方法論についての情報交換ができて相互の連携がかなり深まってきたことが非常に良い成果だと感じています。

【青山氏】 SPCの事例研究分科会では、毎月メンバー各社がそれぞれのSOA事例を発表し合ってディスカッションすることによって、各社のSOA活動や得意技やどんな点で悩んだのだろうということを共有することを主なテーマとして活動しています。

事例を共有して研究することには2つの側面があると考えています。1つはメンバー各社がいろいろな情報を共有できるという点、もう1つは、その結果をお客様に提供することによって、世の中にSOAがこれだけ浸透しているというアピールにもなりますし、お客様の課題に近い事例があればそこからスタートするというビジネスの発端となれる点です。

SOA Partner Communityの効用

【立花氏】 SOA自体は何か実体のあるものではなくて、システムの作り方や考え方だといえます。例えるならば、建築におけるツーバイフォーなどの工法のようなもので、1社だけで「これからはSOAです」と主張することにはあまり意味がなく、IT業界のプレイヤー全体が一緒に同じやり方で、お客様にソリューションとして提供していくことが大きな意味を持つと考えています。

実際、私自身も弊社の中だけでやっている時よりも、SPCで理事会社の皆さんとディスカッションして考えている今の方が、広く物事を発想できていると感じています。

また、お客様が全社システムやIT基盤整備をどうしていくかなどと悩まれているときに、SPCというものが存在していて多数の会社様が参加して同じ方向を向いて

やっているというのは、お客様にとっても非常に有益ですし、今後、参加している会員会社様が組んで案件を実施する事例が増えていったら素晴らしいと感じています。

【入山氏】 技術研究分科会という視点からすると、IT業界における企業ごとの得意分野・不得意分野というのはなかなか分かりづらいのですが、この分科会の中では腹を割って、自社の得意分野はここだけど、この分野に関しては実績がまだないなどの会員会社様ごとの貴重な情報を交換できたことは非常に価値がありました。

特に、どこのIT会社であっても社員が全員SOAにかかわるようなことを仕事としているわけではなく、SOA専門部隊は少人数なこともあります。そのような場合、時には自社内よりもSPCの方がSOA担当者として頼りになる場所になりつつあり、いざとなったらSPCに助けを求めることもできるという関係がお互いにできたことが非常に良かったと感じています。

【青山氏】 事例研究分科会としては、事例の発表を通じて、会員会社様それぞれの得意技が異なっていて、それぞれの会社においてさまざまな案件を実施されているということをお互いに認識できたことが非常に有益でした。今までは自社で独自に得意な技術などを中心にして、ここまでできるがここからは自社ではできないという形になりがちだったのですが、SPCで情報交換した結果、それぞれの得意技を組み合わせお客様に対してソリューションとして提供していくことも可能と感ぜられる1年になったと思います。

また、SPCの活動の成果を自社内に逆流させることによって、自社におけるSOAの啓蒙などに役立たせることもできるのではないかと感じています。

SOAの実施事例について

【上沢】 今までのお話を伺っていて、SPCとは、それぞれの得意技を持った会員会社様が集まって自発的に活動している場であることがよく分かりました。ここで皆さまの会社におけるSOAの実施事例や得意技についてお伺いしたいと思います。

【立花氏】 弊社で公開できる事例の1つに通信事業者様のサービス・オーダー・プラットフォームの構築が挙げられます。通信事業業界では新しいサービスやオプションを短いサイクルで次々に開発して顧客に提供するという競争が行われています。そのお客様でも新しいサービスやオプションを開発すると、必要とされる顧客情報や



アクセント株式会社
テクノロジー コンサルティング本部
ITストラテジ グループ統括
エグゼクティブ・パートナー

立花 良範 氏

Mr. Yoshinori Tachibana

契約情報を管理するシステムを個別にクイックに立ち上げることを繰り返していました。その結果、コールセンターのオペレーターや販売員など、顧客に対面するユーザーは、顧客が選択したサービスやオプションによって複数のシステムを渡り歩く必要がありました。そのため操作も煩雑で人為的ミスも発生したりしていたのですが、これらの必要なプロセスを可視化した上で、複数のシステムを連携させて整合性を保ちながらビリング・システムのマスターに契約情報が登録されるようにプロセスの自動化の仕組みを構築しました。

この仕組みにより、業務の生産性も向上し、人為的ミスもなくなりました。この案件ではプランニングから導入まで一貫して実施しましたが、まだ世の中で SOA が騒がれる前でしたので、後から振り返ってみるとまさに SOA そのものだったと考えます。

弊社は大きな絵を描くところから支援することが多く、例えばポスト M&A で異なった思想の下で構築された2社のシステムをインテグレーションさせるために SOA の基盤や仕組みを提案したり支援したりすることが多くなっています。

【入山氏】 弊社では大きく分けて、IT 戦略や共通基盤の構想などの特定の製品技術が関係しない SOA と、実践的に IBM WebSphere® Process Server などのプロセス・サーバー製品を採用した SOA システム構築の、2種類があります。特に最近では業務改善のためにプロセス・コントロールを推進していこうというお客様の BPM（ビジネス・プロセス管理）案件で SOA を絡める事例が多くなっています。

BPM/SOA 案件には2タイプありまして、1つはコスト削減のような課題が明確になっている業務領域に BPM/SOA を適用して改善していく課題解決タイプ、もう1つは売上向上などの目標を達成するために BPM/SOA を適用していく目標達成タイプです。

課題解決タイプは、ある程度課題が解決されると、同

株式会社ユーフィット
ソリューションビジネス事業部
ソリューションコンサルティング部
BPM/SOA推進室 室長

入山 秀樹 氏

Mr. Hideki Iriyama



じような課題を持つほかの業務領域にその仕組みが横展開されて広がっていきます。一方、目標達成タイプは、1つの業務領域内でさまざまな手法を模索しながら少しずつ改善していくために PDCA を繰り返して深掘りしていく、というのが特徴的です。

最近感じているのが、業務を改善するためには、まずプロセスを可視化し、フローを描き、プロセス・モデリングをしていくのが SOA の王道であるわけですが、そうするとお客様が疲弊してしまうことが結構あります。そこでプロセス・モデリングから始めるのではなくて、現行業務の処理時間などの統計的なデータの分析から始めるとお客様のモチベーションも長続きし、時間がかかっている個所を短くするにはどうすればよいだろう、と自発的にプロセス改善に取り組んでいただけます。その中で、必要な業務機能をサービスとして切り出して定義していくような SOA の進め方も有効だと感じています。

【青山氏】 弊社では、情報システム部門が主導している案件ではアプリケーションの Web サービス対応を含めた既存資産のサービス化から始めて、複数のサービスをつなげるために必要となる連携基盤などを設計・構築するというアプローチが多くなっています。

一方、業務部門主導の場合には BPM を実現するために IBM WebSphere Business Modeler などのビジネス・プロセスのモデリング・ツールを利用してプロセスを可視化してシミュレーションし、それを実際の計測値と比較することによって、現場の方に納得をいただきながらプロセスを改善していくというアプローチで行っています。

また、情報システム部門の方に対しては、IT の全体構想として SOA の考え方を取り入れ、インフラやデータベースや業務プロセスなどの変化のタイミングが異なるものを整理・統合していき、例えば一枚岩になる部分には ERP パッケージの適用の検討や、インフラでも変動する部分には仮想化技術を採用することなども提案しています。

SOA Partner Communityの今後

【上沢】最後にSPCの今後の方向性について伺いたいと思います。

【立花氏】弊社をはじめとしてSPC会員会社様は主に日本の市場で活動しているわけですが、われわれのお客様である日本の企業様は昨今グローバルでの競争や協業をどんどん進めていかざるを得ない状況に置かれています。

特にITの面から見ると、例えばグローバルの企業と協業や合併する場合には、これまで自社の考えの中だけで整備してきたITシステムを、相手先のITシステムと何らかの形で統合するなり連携するなりしなければならなくなります。そして、ITシステムを統合・連携した後は、それを誰がサポートし維持管理していくのかといったことも課題となります。そのようなお客様にとって、SOAというものはデフォルトで必要なテクノロジーなのだと考えています。

冒頭にも申し上げたように、「われわれはSOAでのものづくりができます」というメッセージはIT業界全体の運動として行っていく必要があり、SPCもその一翼として積極的に発信していくことによって、お客様および会員会社様の双方のビジネスに貢献できるようになっていきたいと考えています。

【入山氏】お客様から最近よく聞く言葉としては、自社内でSOAのような取り組みをして、自社のシステムを俯瞰的に眺めて全体最適化させて効率化を図っていきたいのだが、普段から付き合いがあるITベンダーからはなかなか良い回答が出てこない、というのがあります。そういう意味でも、このSPCがそのようなお客様にとって頼りになれるようなコミュニティーになれば素晴らしいと考えています。

技術研究分科会としては、そのようなお客様に対して技術的側面からの情報発信の源になっていくようになれば非常に有効であり、例えば、事例研究分科会と連携を取って、事例の課題別に最適なSOA技術、という形のまとめたいなものを作成することにも着手していきたいと考えています。

【青山氏】SOAを進めていった時に、サービスの数や種類が多くなっていくとレジストリーやリポジトリーのような仕組みがないとうまく既存のサービスの活用や再利用ができなくなってしまいます。それと同様に、このSPCが会員会社様単位での事例や得意技のレジストリーやリポジトリーのような位置付けになることができれば、会員会社様が個別の案件で困った時にも非常に有効だと考えます。例えば、何か困った時にSPCに相談すれば経験

日本ビジネスコンピューター株式会社
ERP事業部
SI企画
先進開発 担当

青山 瑞穂 氏

Mr. Mizuho Aoyama



がある会員様から解決策が出てくるとか、誰も経験がなくても皆で案を考えることができるとか、SPCが会員会社様にとって頼りがいがあるコミュニティーになることができれば素晴らしいと考えています。

【上沢】本日はどうもありがとうございました。

SOA Partner Communityの入会案内や会則などは、
<http://www.ibm.com/software/jp/soa/partners/> を参照。

SOA Partner Community 理事会 (50音順)

会長	アクセンチュア株式会社
	ウイングアーク テクノロジーズ株式会社
	株式会社協和エクシオ
	キャノンITソリューションズ株式会社
	キャノンソフトウェア株式会社
	株式会社クラステクノロジー
	コムチュア株式会社
	株式会社ジェー・アイ・イー・シー
	テクマトリックス株式会社
	東芝ソリューション株式会社
	日本情報通信株式会社
	日本ビジネスコンピューター株式会社
	日立システムアンドサービス株式会社
	マイクロフォーカス株式会社
	三菱電機インフォメーションシステムズ株式会社
副会長	株式会社ユーフィット

【モデレーター】

日本アイ・ビー・エム株式会社
ソフトウェア事業
クライアント・テクニカル・
プロフェSSIONナルズ
第一SW IT Architects
Certified ITアーキテクト



上沢 健 Ken Uesawa

【プロフィール】

1989年、日本IBM入社。2004年よりITアーキテクトとしてSOAを活用したソリューション提案やシステム構築を実施するとともに、セミナーや講演などでSOAの啓蒙活動にも従事。